

業務効率向上やITコスト削減に向けて 中国の現場中心で基幹システムを再構築

NSSOL上海の幅広い支援で操作性の高いシステムを短工期開発

背景

旧システムのサーバーが保守期限切れを迎えるのを契機に、新システムを構築する。中国の会計制度への対応を重視し、ITコストを削減すると同時に業務部門が中心になり要件をまとめ、業務効率を向上させたいと考えた。



森大厦(上海)有限公司
財務部
部長
なずみ
那住 憲司氏



森大厦(上海)有限公司
財務部
副部長
ファン ユファン
房 宇芳氏



森大厦(上海)有限公司
財務部
科長
シュー スージャ
許 思嘉氏



森大厦(上海)有限公司
財務部
観光科
科長
フオ イ
曹 燁氏



森大厦(上海)有限公司
財務部
チュ シージュアン
朱 秀娟氏

ソリューション

新日鉄住金軟件(上海)に支援を依頼。財務会計ソフトウェア「用友」とシステム共通基盤ソフト「intra-mart Accel Platform」やNSSOL独自業務テンプレート群をベースに開発。モックアップの活用などで操作性を高める。

成果

膨大なデータ移行を終え、予定通り運用を開始。処理性能や操作性の向上などによる業務効率化と、開発・保守にかかるITコストの削減を実現した。各種要件をきめ細かく反映したことで新システムへの移行も円滑に進んだ。

旧システムサーバーの保守期限切れを契機に新システムの構築を検討

中国・大連市における1996年の森茂大厦の竣工や上海市における1998年の恒生銀行大厦(当時の名称は上海森茂国際大厦)の竣工を経て、101階建ての上海環球金融中心を2008年に竣工した森ビル。森大厦(上海)は、上海2棟それぞれの事業会社の統括運営会社として2007年に設立された。森大厦(上海)が基幹システムの再構築を検討したのは2014年ごろである。旧システムは、上海2棟の各事業会社の記帳通貨の違い(複数通貨)への対応、および日本の本社との連結決算などを意識したため、グローバル対応を重視していた。新システムではその方針を変更。中国国内の会計制度への対応を重視してITコストを削減すると同時に、業務部門が中心になって各部署の要件をまとめ、操作性向上や業務の流れに合わせた新機能を実現したいと考えた。

NSSOL上海が中国の代表的な財務会計ソフトなどをベースに開発

森大厦(上海)は2015年1月に構築準備を開始。RFP(提案依頼書)に対応した日系・中国系のITベンダー5社から、新日鉄住金ソリューションズの中国現地法人である新日鉄住金軟件(上海)(以下、NSSOL上海)に支援を依頼する。NSSOL上海は旧基幹システムの保守を担当し、森大厦(上海)の業務やITを熟知しており、短工期開発に対応するプロジェクト推進力があると評価した。新システム構築プロジェクトは同年4月に本格スタート。財務システムは中国の代表的な財務会計ソフトウェア「用友」で、ビル賃貸事業を支援する契約システムはシステム共通基盤ソフト「intra-mart Accel Platform」とNSSOL独自業務テンプレート群でそれぞれ開発を行った。NSSOL上海は設計の早い段階で業務部門の担当者にモックアップで意見を求め、システムの操作性を高めた。

業務効率向上とコスト削減を実現、操作性についての評価も良好

旧システムからの膨大なデータ移行を終えて、財務システムと契約システム、BI(ビジネス分析)ツールで構成する新基幹システムは会計年度が始まる2016年1月から運用を開始している。新システムの評価は高い。契約システムにおける請求書の発行処理時間が100分の1に短縮されるなどで業務効率が全般に向上したうえ、システムの投資コストについては以前の約10分の1に、保守コストは約半分に削減されている。業務部門が中心になって各部署の要件をきめ細かく反映したことで操作性に対する利用者の評価も良好だ。業務の流れを基に入力項目を絞り込む、分散していた機能用途ごとにまとめるなどが行われており、新システムへの移行も円滑に進んだという。森大厦(上海)は今後も、システムの改良・拡張を通じて業務のさらなる効率化に取り組んでいく予定だ。

Key to Success

森大厦(上海)が新基幹システムを導入した目的は、業務効率化とITコスト削減である。

財務部 部長の那住憲司氏は「2008年に導入した旧基幹システムのサーバーが保守期限を迎えるのをきっかけに新システム導入の検討を開始しました。旧システムをアップグレードする方法と新システムを開発する方法を多面的に比較して、新システムを開発する方法を選択しました」と話す。

財務部 副部長の房宇芳氏は「旧システムは、中国の会計制度への対応に課題があり、人手による追加作業が必要になっていました。また、全体的に操作性を改良する必要があると感じていました」と振り返る。

新システムの開発を支援するITベンダーにはNSSOL上海を選定した。

那住氏は「NSSOL上海は、旧システムの保守を通じて、その技術力を評価しており、旧システムの良いところを維持し、より良いものを追加してくれると期待しました。新会計年度に稼働が間に合うよう、短工期で開発したため、プロジェクトでは様々な工夫を行っています。例えば、タスクに優先度を付けて最低限実施するものを明確にしました」と話す。

NSSOL上海は、要件定義からシステム利用者教育まで、幅広く森大厦(上海)の業務部門の担当者を支援した。

財務システムの要件とりまとめなどを担当した財務部 科長の許思嘉氏は「工期が短いなか、NSSOL上海は必要な機能を開発し、操作できるまできめ細かく支援してくれました。本格稼働開始後も利用者が慣れるまで、エンジニアが常駐して問い合わせに対応してくれました」と話す。

契約システムの要件とりまとめなどを担当した財務部の朱秀娟氏は「NSSOL上海のエンジニアは当社の業務とITの両方をよく理解しています。当社からの質問も、本来の意図をくんで回答してくれるため、プロジェクトが円滑に進みました」と話す。

ユーザーテストや利用者教育、インシデント管理などを担当した財務部観光科 科長の曹燁氏は「NSSOLはプロジェクトやシステムの状況を、週報というドキュメントに分かりやすくまとめてくれ、大変役立ちました」と語る。

NSSOL上海が業務部門を支援 8年分の膨大な契約データも移行

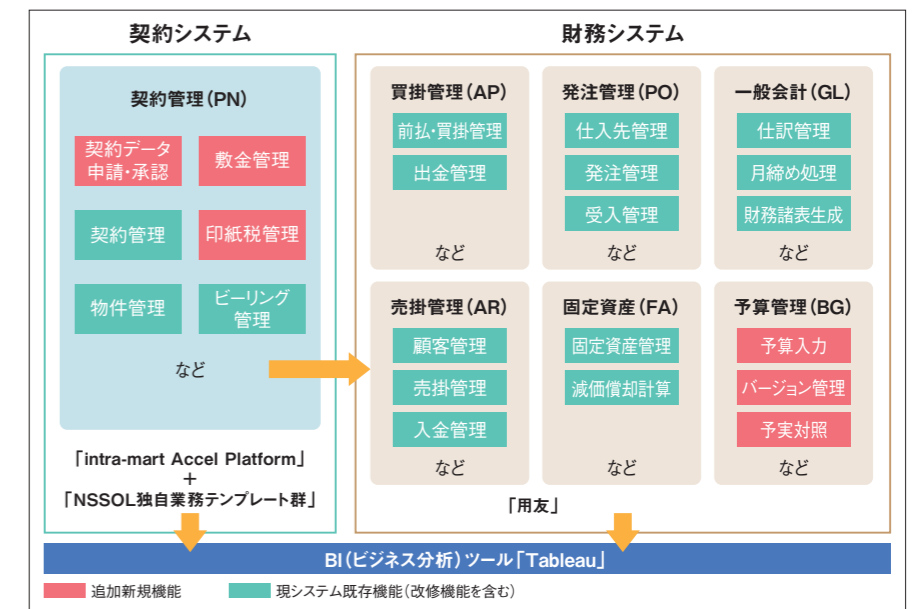
データ移行は難関だった。房氏は「旧システムには8年分の膨大な契約データがありました。非常に重要なデータ

だけに移行に際して不安がありました。NSSOL上海は無事、全データを移行しました。よく移行できたと今でも感心しています」と振り返る。

新システムに対する評価は良好だ。房氏は「多数の新機能を追加しましたが計画通り稼働し、関係部門は新システムで円滑に業務を行っています」と話す。曹氏は「新システムでは機能を整理・統合したため、システムの操作が分かりやすくなりました」、朱氏は「契約システムでは、以前3時間かかっていた請求書の発行が3分で終わるようになり業務効率が大幅に向上しました」とそれぞれメリットを挙げる。

那住氏は「今回は、システムを実際に利用する中国の業務部門が中心になり、プロジェクトを推進しましたが、それができたのもNSSOL上海の支援のおかげです。これからも新システムの提案や高品質のサポートをお願いできれば幸いです」と語る。

森大厦(上海)が導入した新基幹システムの概要



コアテクノロジー

中国の業務システムに対する実績、ワークフロー、短工期・高品質のプロジェクト推進力、データ移行

システム概要

- システム共通基盤ソフトウェア：intra-mart Accel Platform
- アプリケーション：NSSOL独自業務テンプレート群、用友